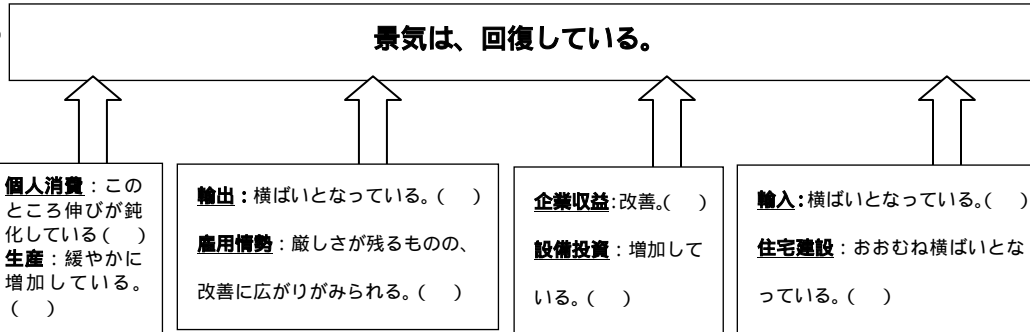


マーケット・アイ (概観)

政府月例経済報告等

10月：基調判断
(8か月連続で判断据え置き)



<先行き>
企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。
一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。
(カッコ内は方向性を表示)

月	我が国経済の基調判断	判断の方向性
05/8月	景気は、緩やかに回復している。	8月() 9月() 10月() 11月() 12月() 1月()
06/2月	景気は、回復している。	2月() 3月() 4月() 5月() 6月() 7月() 8月() 9月() 10月()

景気動向指数 先行 7月27.3 8月18.2 9月18.2P 3か月連続で50%を下回る。
9月分改訂値DI 一致 7月75.8 8月80.9 9月45.0P 6か月ぶりに50%を下回る。

物価指数 (前年同月比%)

全国消費者物価指数 (除く生鮮食品) 06/8基準改定 新基準は05年基準	旧基準	新基準
05/11	+0.1	
12	+0.1	
06/1	+0.5	0.1
2	+0.5	±0.0
3	+0.5	+0.1
4	+0.5	0.1
5	+0.6	±0.0
6	+0.6	+0.2
7	+0.6	+0.2
8	+0.7	+0.3
9	+0.6	+0.2
10	+2.8%P	

日銀金融経済月報

カレンダー

金利予想

11月：基本的見解 (4か月連続で基調判断を据え置き)

わが国の景気は、緩やかに拡大している。

輸出は増加を続けている。()
生産は増加を続けている。()
設備投資は引き続き増加している。()
雇用者所得は、緩やかな増加を続けている。()
個人消費は増加基調にある。() 住宅投資は振れを伴いつつ緩やかに増加している。()
公共投資は減少傾向にある。()
国内企業物価は、原油価格の反落が影響し、上昇テンポが鈍化している。()
消費者物価(除く生鮮食品)は、プラス基調で推移している。()
先行きについては、景気は緩やかな拡大を続けるとみられる。()
(カッコ内は方向性を表示)

日程	内容
11/29	10月の鉱工業生産
12/1	10月の全国CPI 10月の全世帯家計調査
12/8	10月の機械受注 7-9月期のGDP二次速報
12/12	11月の企業物価指数
12/15	日銀12月短観(概要)
12/18	日銀金融政策決定会合1日目
12/19	日銀金融政策決定会合2日目 金融経済月報、総裁定例会見
12/26	11月の全国CPI
12/28	11月の鉱工業生産

種類	今後1-2か月を展望	備考
無担コール (加重平均)	(O/N) 期間中の平均 0.24~0.26%	当座預金残高は特定日を除き7兆円台と低水準で推移しているが、無担保コールONの加重平均レートは底堅い地合いの中、0.25%前後で安定している。
短期国債 (FB/TB)	(3M) 0.42~0.46% (6M) 0.47~0.55% (1Y) 0.58~0.70%	早期の利上げに対する警戒感からレートは上昇してきたが、このところやや一服感がみられる。
C P (3か月物)	a-1+ 0.45~0.50% a-1 0.46~0.51% a-2 0.55~0.60%	年越えの3MはFBレートの上昇を受け強含み、現状は横ばいで推移。また、銘柄間のレート格差はほとんどみられない。

2006年10月展望レポート (10月31日)

2006年10月「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)

指標	2005年度実績	2006年度実績	政策委員の大勢見通し (太字は中央値)			
			2006年度	06年4月時点の見通し	2007年度	06年4月時点の見通し
実質GDP	+3.2%	+1.8% 4-9月	+2.3~+2.5% +2.4%	+2.1~+3.0% +2.4%	+1.9~+2.4% +2.1%	+1.8~+2.4% +2.0%
国内企業物価	+2.1%	+3.2% 4-10月平均	+2.9~+3.5% +3.0%	+1.4~+1.8% +1.5%	+1.1~+1.5% +1.2%	+0.8~+1.1% +1.0%
消費者物価 (除く生鮮食品)	+0.1%	+0.1% 4-9月平均	+0.2~+0.3% +0.3%	+0.6~+0.6% +0.6%	+0.4~+0.5% +0.5%	+0.7~+0.9% +0.8%

経済・物価情勢の見通し
わが国経済は、緩やかに拡大している。前回(2006年4月)の「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)で示した「経済・物価情勢の見通し」に比べると、**これまでのところ、企業部門は幾分強め、家計部門は幾分弱めとなっているが、全体として概ね見通しに沿って推移している。**

上振れ・下振れ要因
経済情勢 海外経済の動向、企業の投資行動の一段の積極化
物価上昇率 需給ギャップに対する物価の感応度の不確実性、原油をはじめとする商品市況の動向、潜在成長率の影響

金融政策運営
先行きの金融政策の運営方針については、第一の柱(先行き2007年度までの経済・物価情勢について最も蓋然性が高いと判断される見通しについて、政策金利に関して市場金利に織り込まれている金利観を参考にしつつ点検)および第二の柱(より長期的な視点を踏まえつつ、確率は高くなくても発生した場合に生じるコストも意識しながら、金融政策運営という観点から重視すべきリスクを点検)に基づく点検の結果、**極めて低い金利水準による緩和的な金融環境を当面維持しながら、経済・物価情勢の変化に応じて、徐々に金利水準の調整を行うことになると考えられる。**

10月末以降弱めの指標相次ぐも、7-9月期GDPの予想比上振れで早期利上げ観測が再浮上

公表日	指標	比較対象期	前回(実績)	今回(予測)	今回(実績)	予想比	コメント
10/27	9月全国CPI(除く生鮮食品)	前年同月比	+0.3%	+0.3%	+0.2%		石油製品価格上昇鈍化
10/30	9月鉱工業生産指数	前月比	+1.8%	0.8%	0.7%		2か月ぶりにマイナス
10/31	9月完全失業率		4.1%	4.1%	4.2%		
10/31	9月家計調査(実質消費支出)	前年同月比	4.3%	2.1%	6.0%		9か月連続でマイナス
11/10	9月機械受注(除く船舶・電力)	前月比	+6.7%	+1.8%	7.4%		16か月ぶり1兆円割れ
"	"	前期比	+8.9%	+4.9%	11.1%		調査開始以来の最大減
11/13	10月国内企業物価指数	前年同月比	+3.5%	+3.3%	+2.8%		16か月ぶり前月比マイナス
11/14	7-9月期GDP一次速報(実質)	前期比	+0.4%	+0.2%	+0.5%		7四半期連続プラス成長
"	"	同年率換算	+1.5%	+0.9%	+2.0%		
"	7-9月期GDP一次速報(名目)	前期比	+0.2%		+0.5%		再び名実逆転
"	"	同年率換算	+0.7%		+1.9%		
"	7-9月期GDPデフレーター	前年同期比	1.2%		0.8%		デフレ脱却へ前進
"	7-9月期国内需要デフレーター	前年同期比	0.3%		+0.1%		7四半期ぶりにプラス
"	7-9月期ECIT・レバレッジ・コスト	前年同期比	0.7%		1.4%		
11/16	9月景気動向指数改訂値(先行)		18.2%		18.2%		3か月連続で50%割れ
"	9月景気動向指数改訂値(一致)		80%		45%		6か月ぶりに50%割れ